

高尾山報

令和5年7月号



あじさい
梅雨の山中を彩る紫陽花



お大師さまへの報恩謝徳のため法要が行われた

六月十五日、真言宗祖弘法大師御誕生巻千二百五十年を記念する慶賛法要を締めくくる、結願法要を佐藤貫首導師のもと、大師堂において厳修致しました。お大師さまは承和二年に高野山奥之院にご入定なされ世の安穩を祈り続けておられます。当日は五月二十一日に行われた慶賛法要に引き続き、大勢の御信徒の方々が参列されました。

宗祖弘法大師御誕生巻千二百五十年記念 慶賛法要厳修 六月十五日(木)

神変祭厳修

六月七日(水)



神変様の御遺徳を偲び法要を執り行う

（大江千里『句題和歌』）
（心が穏やかなときは、身体に涼しい風を受けなくても心地よく感じられるよ）
この和歌は、白居易（七二〇〜八四六）『白氏文集』の「但だ能く心静かなれば即ち身も涼し」（ただ心を静かに澄ませているので、そのまま身も涼しいのです）という漢詩の一節を踏まえたものです。「心静か」とは「心が穏やかで落ち着いている様子」を意味します。夏の暑さは避けられなくとも、せめて心は平静に保ちながら、燃え盛る迷いの炎（煩惱）を抑えていきたいものです。
余談ですが、「心静か」と言えば、江戸時代の俗信に「おんそろそろ心静かにそこ立つ時はあと見ろそわか」という呪文があるそうです。どこかに出かけてその場を去るときに、この言葉を唱えてから三遍跡を確認すれば物を置き忘れないとか。何事も慌てずに冷静に行

あるという想像上の池ですが、チベット自治区南部に実在するマナサロワール湖であるとも言われています。かつてこの聖地を訪れた学僧で探検家の河口慧海（一八六六〜一九四五）は、「豪壮雄大にして清浄靈妙」の湖と書き記しました（『チベット旅行記』）。また、かの宮沢賢治（一八九六〜一九三三）は、阿耨達池をこのように描いています。
まっ白な石英の砂

音なく湛える
ほんたうの水
（宮沢賢治『口語詩稿』）
「阿耨達池幻想曲」より抜粋
「清涼」（絶対の境地）とも訳される阿耨達池は、宮沢賢治が言うように「本当の水」を湛えているのでしよう。涼しく澄み渡った清らかな水は、お大師さまの祈りの力によつて雲となり、はるばる海を越えて「竜王の雨」を降らせたのです。
（栃木北部教区普濟寺）

六月七日、神変堂において、神変祭が執り行われました。お祀りされている神変大菩薩は修験道の開祖であり、役小角の名前でも知られております。
神変様の御命日と伝わるこの日、神変様のご本誓である、庶民の救いとなる、「生活の中の仏教」の実現を願って、厳かに法要が執り行われました。
現在では修行者のみならず、健脚や腰痛平癒の御利益を求め、御信徒や登山の皆様が熱心にお参りされております。

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(133)

しとしと雨の日々から、雷鳴を伴う「送り梅雨」の時期が近づいてきました。旧暦六月（現在の七月頃）の異名は「水無月」。その語源には諸説ありますが、「水無月」は「水の水（田に多くの水を必要とする月）を表すからとか、梅雨明け後の暑さで「水が尽きる月」（水無月）からという文字通りの説もあります。何れにしても、日常生活には欠かすことのできない水の有り難みを身近に感じる月なのでしょう。

見なかつたならば）
旧暦六月は「水月」とも呼ばれますが、雨上がりの水面に映る月影を眺めれば、晩夏の暑さも和らぐでしょうか。水に映る月は儂いことから、仏教の教えを説く「水月の観」（無常観）という言葉もありません。梅雨時には鬱陶しさを感ずる日もありますが、時には目の前にありながら手に取ることもできないものを深く観じて、心の中の雨雲を晴らしてみたいかがでしょうか。
七月も下旬になれば、照りつける夏の太陽（炎陽）が一気に顔を出して来よう。
我が心
静けきときは
吹く風の
身にはあらねど
涼しかりけり

さて今回は、雨にまつわる弘法大師空海（七七四〜八三四）の伝説を取り上げてみたいと思います。今は昔、淳和天皇（七八六〜八四〇）の御代に全国的な干ばつが続き、多くの作物が焼き枯れてしまいました。天皇をはじめ全ての人が嘆き悲しみました。
天皇は弘法大師を召して、雨を降らせる方法を尋ねになりました。すると「そのような修法がございませう」とお答えになつたので、天皇はすぐに始めるように命じます。お大師さまは、さつそ

く神泉苑で請雨経の法（降雨を祈る法）を執り行いました。七日間行うと壇の上に五尺（約一・五メートル）ばかりの蛇が現れ、見ると五寸（約一・五センチ）ほどの金の蛇を頭上に乗せていました。しばらくすると蛇は池の中へと入っていきました。

この蛇について、お供の僧の一人がお大師さまに尋ねると、「あなたのご存じなのか。あれは天竺（インド）の池に住む善如竜王が、この修法が叶うだろうと現れたのだ」と答えました。そうしているとき、戌亥（北西）曇つてきて、



梅雨が明け夏本番となる



佐藤貫首による法話

去る五月二十九日、葉王院の縁故寺院の集まりである高尾山法類会が行われました。初めに法類会研修として山上の有喜閣大広間に、佐藤貫首による「霊気満山高尾山くなぜ人々はこのお山に集うのか」と題された法話が行われました。

その後八王子エルシーに場所を移し、総勢四十一名の出席者により、法類会定期総会が行われました。開会に先がけて法類会々長である犬山執事長挨拶の後、議事が進行され、令和四年度収支報告、令和五年度収支監査報告、法類会の近況報告などが審議されました。

総会終了後には懇親会が開かれ、佐藤貫首を囲み参加者は和やかなひと時を過ごされました。

五月二十九日(月)

高尾山法類会定期総会

佐々井秀嶺師 山本秀順大和尚の墓参に来山



数年振りに帰国した佐々井師(手前)

五月三十日、インドの地で仏教復興運動に尽力されている佐々井秀嶺師が高尾山へ来山されました。

佐々井師は、昭和三十五年に先々代貫首・山本秀順大和尚の弟子として得度し、昭和四十年にタイに留学、その後インドへ渡り、不可触民開放運動の父・アンベードカル博士の遺志を継ぎ、インド仏教の復興運動を続けられております。

高尾山に到着された佐々井師は、先師墓地にて山本貫首のお墓にお参りされ、これまでの活動について報告されました。

高尾山環境保全基金 協力会総会

五月三十日(火)

五月三十日、ライオンズクラブの有志の方々が構成された高尾山環境保全基金協力会(石井征二会長)の皆様が御来山され、高尾山上において定例総会が開催されました。

環境保全基金協力会は登山者のための休憩用のベンチの奉納、トイレトペーパーの補充などに、ご協力頂いております。

総会には約四十名が出席して今後の活動に向かつてさらなる飛躍と充実を図ろうと活発に意見交換してまいりました。



総会では活発に意見交換が行われた

第四十八回 高尾山慶賛会 通常総会開催

去る六月五日、第四十八回高尾山慶賛会通常総会が八王子エルシーにて開催され、約八十名の方々に御出席頂きました。

総会は慶賛会々長である、大野彰氏の挨拶により開会し、議長の選出、令和四年度の事業報告及び会計報告、監査報告、令和五年度の事業計画案及び予算案の順で議事が進められ、ご出席の皆様のご協力により魔事なく進行し、全ての議案について承認の運びとなりました。

続いて高尾山協賛各団体に、高尾山及び高尾山慶賛会より賛助金が贈呈され、結びにあたり佐藤貫首より謝辞が述べられました。

総会後には真言宗の宗祖弘法大師御誕生壹千二百五十年を記念して、真言宗智山派布教師養成所講師・教師講習所講師の吉野孝壽師による法話「弘法大師の生涯」が行われ、会場の皆様が開き入り、お大師様に思いを馳せるひと時となりました。



謝辞を述べる佐藤貫首



吉野孝壽師による記念法話「弘法大師の生涯」

慶賛会 入会のすすめ

もともと仏教語で「慶賛」とは、仏教寺院、堂塔などの新築、修繕を祝賀する意味であります。高尾山慶賛会は、高尾山古来から伝承された年中行事を賛助し、御本尊・飯縄大権現様を尊信し、地域社会の親睦を図ることを目的としております。

近年では高尾山は「霊気満山 高尾山く人々の祈りが紡ぐ桑都物語」というテーマで日本遺産に選ばれており、多くの参拝者が来られています。

ぜひとも茲に広く高尾山慶賛会員を募り、ご加入ご協賛を頂き、ご本尊様の威神力に浴されますよう祈念するものであります。

年会費 一口五千元

詳細は高尾山慶賛会事務局にご連絡下さい。 ○四二一八六一一二五



侍装束を着た慶賛会の皆様

観音菩薩の宗教

67

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音（その5）

前号ではチベットの前号ではチベットのプダク写本に説かれた如意輪観音の陀羅尼と、その功德を見てきた。表音文字であるチベット文字で音写されたサンスクリット語の陀羅尼は復元しやすいが、漢字音写の陀羅尼は特殊な字が多く復元には注意を要する。日本では漢訳を通じて陀羅尼が普及したことに鑑み、以下に漢字音写による如意輪陀羅尼を見ることにする。ここでは『實又難陀記』(『大正大藏經』第二十卷、No.1082)から相当部分を引用し、伝統的な日本の読みに倣い仮名表記を示す。陀羅尼に付された漢字の音声記号は省略した。陀羅尼の和訳は前号の徳重弘志訳を参照されたい。

先ずはプダク写本チベット語訳で「根本の真言」とされ、實又難陀記では「身呪」とされる陀羅尼である。

「俺祈迦羅羅伐底梅檀摩尼摩訶鉢頭迷嚩嚩底瑟陀遮伐囉阿曷囉舍鳴併泮莎婆呵」
「おん しやきやらばりち しんだまに まかはんどめい ろろちしゆた じんばら あきやらしやうん はつたそわか」

次はプダク写本および實又難陀記ともに「心呪」とされる陀羅尼を示す。
「俺鉢頭迷梅檀摩尼摩訶遮伐囉吽」
「おん はんどめい しんだまに まかじんばら うん」
最後の陀羅尼はプダク

写本で「緊密な心呪文」とされるが、實又難陀記では呪の名称は掲げられていない。ただし、陀羅尼は両者一致する。
「俺伐囉哆鉢頭迷吽」
「おん ばらだ はんどめい うん」

實又難陀記においてこれらの陀羅尼が説かれるのは、最初の章である「除破一切惡業陀羅尼品第一」である。前号で見たチベット語訳と同様、これらの陀羅尼は「如意輪陀羅尼」と呼ばれ、観世音菩薩が「一切衆生饒益の爲に」世尊の許可を得て説いたものである。観世音菩薩がこの陀羅尼を説き終わると、大地が六種に震動し、天や龍や夜叉などの宮殿が震動して魔王たちは多いに「驚怖」したという。それにより、「夜叉・羅刹・毘那夜迦・惡魔・鬼神も悉く害すること能はず」、すなわち悪鬼たちが害を与えることができなくなり、種々の皮膚病などの病気を除くことができることされる。

また、「観音經」の所説と同様、「蚺蛇蝮蠍」(マムシやサソリ)に害されることなくなくなることも説く。さらに、「兵闘戰陣も皆な勝利を得ん」といい、「若し官事の諍訟あらば皆な和解を得る」として、戦争になれば勝利し、訴訟沙汰が起きても和解できると述べている。なかでも、多くの病名を列挙し、それが如意輪陀羅尼によつて治療されるとしたことは、本經の人氣を支えた。チベット語訳にせよ漢訳にせよ、かかる病名が現在の何に相当するかは検討を要するのでここでは和訳を試みないが、本經の病氣に対する知識および関心の高さを示すために實又難陀記から当該箇所を引用しておく。なお、徳重弘志訳(前号掲載論文三七頁)にはチベット語訳からの和訳が示されている。

「諸厄難一切疾病。若熱病一日二日三日四日。若晝若夜若風黃痰癰等病。誦此呪者悉得除愈。若被

蠱毒厭禱丁瘡。疥癩痛痒風狂頭痛。及耳鼻唇舌牙齒咽喉。口面頭腦胸脇心腹。腰背脚手頭足等痛悉得除差。但是身中有病皆悉治之」

次章の「観世音菩薩祕密藏一切愛樂法品第二」では、如意輪陀羅尼を繰り返し誦することを勧め、それにより種々の願が満たされると説く。例えば、「観世音菩薩を見んと欲せば、誦すること一千八遍せば即ち其の眞身を見て一切成滿せん(観音菩薩を見たい人は、この陀羅尼を二千八回唱えれば、その本當の姿を見ることができ、あらゆる願が成就するだろう)」とし、「若し諸佛及び諸大衆を見んと欲すれば、誦すること一萬三千遍せば即ち見ん(諸仏や高德の僧侶たちを見たい人は、この陀羅尼を二万三千回唱えれば見ることができるとする)」とする。

現世利益を中心に、考えつく限りの衆生の願を成就する如意輪陀羅尼の



聖武天皇像(模本)。蜷川親胤(式胤)模。慶応3年。東京国立博物館蔵。
ColBase (https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-9164?locale=ja)
讓位して太上天皇となった聖武天皇は、病氣となり看病禪師の「治療」を受けた。

功德は、観音經の観音菩薩やターラー菩薩のそれに通底する。観音經が「観音の力を念ずれば」(拙稿「観音菩薩の宗教」⑥)とし、『二十一ターラーへの讚』が「ターラーを讚歎」(27~35)することにより、観音菩薩やターラー菩薩が衆生の願を叶え、諸悪を取り除くとするのに対し、如意輪經典では陀羅尼を唱えることによる所願成就を強調する。医療が未発達な時代、治病の功德は衆生がもつとも強く求めるところでもあつた。すでに見たように、如意輪信仰は奈良時代に始まった(「観音菩薩の宗教」⑥)。その中心は治病であり、聖武天皇の不豫に対する僧侶の祈禱はその実例であった。『続日本紀』(巻第十九)の天平勝宝八歳五月丁丑の条に以下のようにある。原文に続いて書き下し文と拙訳のち解説を示す。()は補訳である。

「丁丑。勅。奉為先帝陛下、屈請看病禪師一百廿六人者。宜免当戸課役。但良弁。慈訓。安寛三法師者。並及父母兩戸。然其限者、終僧身(中略)。加以。良弁。慈訓。二大德者。当于先帝不予之日。自尽心力。労働昼夜」

「丁丑。勅。先帝陛下の奉為に屈請せる看病禪師一百廿六人は、当戸の課役を免ずべし。但し、良弁・慈訓・安寛の三の法師は、並に父母の兩戸に及ぼせ。然してその限りは僧の身終るまで(中略)。加以、良弁・慈訓の二の大徳は、先帝不豫の日に当り、自ら心力を尽して昼夜に労働しき」

「丁丑の年(七五六)の(孝謙天皇)の勅語(に次のようにある)。先帝陛下(たる聖武天皇)のおんために、(法会に招いた)看病禪師百六十人は、家に当てられる賦役などの税を免じなさい。ただし、良弁・慈訓・安寛の三人の法師は、彼らの父母にも及ぼし(て税を免じ)なさい。そうして(免税の時期は三人の)僧が亡くなるまで(の一代限りにしなさい)。(中略)それだけでなく、良弁・慈訓の二人の大徳は、先帝(たる聖武天皇)がお病氣の日に当たり、心の力(の限りを)尽して昼も夜もよく勤めた」

東大寺創建など、仏教興隆に尽した聖武天皇は、生前に娘の阿倍内親王に讓位した。阿倍内親王は日本史上唯一の女性皇太子であった。のちの女帝・孝謙天皇である。孝謙天皇は、聖武天皇が病氣になった時、看病禪師百六十人を招いて祈らせた。不豫とは天皇の病

前号の訂正

前号冒頭で挙げた如意輪観音に関する漢訳經典の訳者と経題に誤記が誤記があったので、以下の如く訂正する。

義浄訳『佛説觀自在菩薩如意心陀羅尼呪經』、寶思惟訳『觀世音菩薩如意摩尼陀羅尼經』、實又難陀記『觀世音菩薩祕密藏如意輪陀羅尼神呪經』、菩提流志訳『如意輪陀羅尼經』

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「明るく前向きに」

八王子市 栃谷 怜子 様

明るく
前向きに



5A

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

十八段 良き種まけば 豊かな実り

農業ではまず種を播くのではなく、土壌を良くして良い畑を作り、良い種を播きます。人間も同様で 実り多き人生を送るためにも、ただ漫然と生活するのではなく、本を読んだり、旅行に行つて見聞を広めたりして、日々研鑽を重ねましょう。

- 夏遊梅尾山
- 上洛雑感(3)
- 京都梅尾高山寺
- 主廳石階清瀧川
- 世界遺産成何故
- 老尼笑答寂靜仙

川床料理 厚木市 荒井 一雄
呑めば微笑い 京娘

夏、梅尾山に遊ぶ (永六輔氏曰く)
『京都梅尾高山寺…』
金堂・石段・清瀧川…
『此れ程静かで何も無き
世界遺産は珍しき…』と
老尼僧に尋ねれば
『静かで何も無き故、
世界遺産と成るらん…』と
笑ふて答ふ…』

高尾山 季節散歩

暦の言葉 「七十二候」 大雨時行

「たいうときどきにふる」

八月一日〜八月五日頃

日本の夏は高温多湿な気候で知られ、時に大雨となる。昔は夕立や滝落としと呼ばれておりましたが、近年ではゲリラ豪雨や線状降水帯などの言葉をよく聞きます。この時期の高尾山へお越しの際には、念の為に雨具をご用意下さい。

今月の風物詩 海開き

「海開き」とは一般的に海水浴場を開設して利用できるようにすることで、多くの場合は七月上旬から中旬です。海開き期間以外でも遊泳は可能ですが、期間以外では、安全対策が講じられなかったり、海の家などの施設が閉鎖されている場合が多いです。

江戸消防記念会 第十區高尾山木遣高聲會 木遣塚祭

六月十八日 於・飯縄権現堂下踊場



いけばなの心 ④1

華道教授 佐藤 宗明

今回は熱帯を中心に生育する植物、『糸芭蕉』を使用して作品を制作しました。見た目からも南国のイメージを感じる方が多いと思いますが、強い耐寒性も持つっており、関東より南では地植えでも冬を越すこともできるようです。

糸芭蕉は葉が大きく、茎も非常に太いので、バランスを取るために花器には大きなカゴを使用しています。

芭蕉を使用した生花正風体は池坊では七種伝という特別な生け方が伝えられています。生けるのに適した花器や葉の枚数などが伝えられています。最大の特徴は正面中程に使用する葉に、折れたものを使う、という事です。芭蕉は大きな葉が特徴です



花材：芭蕉



ではその姿を、正面に示すことで『芭蕉らしさ』を表現しています。七月に入り日差しが強くなってきましたが、体調にはどうぞお気をつけください。

いろは 天狗の落し文 ③0

ま

真似てみることは
善きことは
悪しきことみな
遠のける

「学ぶ」と「真似る」、二つの言葉は同じ語源であると言われております。人は良き師の教えを受け、師の真似をすることで、それから自分に適した方法を創り出していきます。

先人の知恵や知識、経験というものは、幾世代にわたつて先人が築き上げて、改良してきた方法なのです。人の真似は決して悪いことではありません。ただし、どうしても悪い習慣も一部にはあるでしょう。善いことだけを真似て習得できるよう、師の言葉であっても無批判に受け入れるのではなく、自分で考えて選択していきましょう。

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

43

十八世秀神1 天明期の混迷



噴煙を上げる浅間山(群馬県)

天明元年(二七八)六月、高尾山第一七世秀興の隠居にともない、弟子の秀神が後住となることを、末寺・門徒寺院一同が承知する旨の連印一札が作成されている。

秀神の山主就任

この年十月の紀伊徳川家からの書状は、秀神の住持就任にあたり、引き続き祈禱を依頼する旨を伝えているが、「前葉王院御病身につき、先般ご隠居」とあり、秀興隠居の理由が判明する。秀神は七月四日付の門末寺院に宛てた文面で、六月二八日に江戸触頭から住持継承を承認され、色衣着用願いも済み、翌日触頭へ御礼のため参上、また、大覚寺方廣院兼帯の手續きと、住持交代にともなう一連の事務の完了を報告している。六月一七日と伝えられている秀興の命日を考えると、いよいよ病が深刻となった折の交代であったことが推測され、一ヶ月ほどの間に慌

ただしく手続きがなされたことになる。

秀興の享年はわかっていないが、寛延三年(二七五〇)以来、三年の在任を考えると、相応の年齢に達していたと判断されるので、数え三〇才という若さの秀神は末弟からの抜擢であったことが推測される。あるいは、まだ隠居の湛玄(二六世秀憲)が健在で、その後見が期待されたのかもしれないが、湛玄もすでに八七、当時としては稀有な高齢であった。程なく十一月三日、湛玄も秀興の後を追うように入寂。一山の進退は、満年齢では未だ二十代という若き秀神の双肩にかかることになったが、それだけの才はあらかじめ見込まれていたのだろう。

浅間山の噴火と大飢饉

「天明」の年号は、その夜明けの清冽な語義のイメージとは裏腹に、江戸時代においても苦難の最たる時期という印象が強

い。異変はその三年目に発生した。

高尾山の最寄り上栲田村旧家の日記には、七月六日「昼過ぎより北の方鳴りものする」という記述がある。翌日には「二日北の方にて鳴り物雷のごとし」とされ、いぶかしみながらも、ただ事ではない予感のただよう状況がうかがえる。同日一日から浅間山が噴火を始めたと後筆されているが、その鳴動が遠く離れた八王子地域にまで届いたのである。高尾山上にあった秀神らの耳にも聞こえたことだろう。

浅間山ではそれ以前から鳴動が続いていたが、大噴火が発生したのは八日ということになっている。すでに六日の段階で遠く八王子にまで不気味な地鳴りが聞こえており、八日は火山灰が八王子方面にも降ったことが日記の記載からわかる。日記は利根川が満水となり、中山道の荷送りが途絶したと、甲州道中

の通行が増えたことも記している。火山灰の堆積によって河床が上昇し、水面が岸ぎりぎりの高さになつてはいるが、思ひ浮かぶ。また、街道筋にも灰が降り積もり、交通が麻痺したということか。甲州道中の交通量が増えたのは、碓氷峠經由で江戸と往来のあつた信州(長野県)方面の荷主が、いち早く異変の情報を得て、荷送りのルートを変更したということだろうか。

浅間山噴火による降灰が田畑を荒廃させるとともに、舞い上がった火山灰は太陽光を遮り冷害をもたらした。当時は地球規模の気候変動においても低温期であつたことが指摘されており、すでに東北地方では不作が続いていたが、噴火による影響が大凶作を招くことになつた。

九月二四日(新暦では一〇月九日)に旧家の日記は米の高値に驚く記述をしており、翌天明四年には「この年大飢饉にて」

「松の内より兵糧これなき者、野老を掘る者多し粟糠一俵四百文いたし申しそうろう」と回顧がなされている。米価の高騰は諸国で米問屋や財を占有する富裕者に対する打ちこわしを引き起こすに至つた。

田沼意次の失脚

天明六年(二七八)八月、一〇代将軍家治が薨去。明君として期待されて就任した家治であったが、その治世の終わりは混迷のただ中というこゝとなつた。翌月、側近として家治を支えた、老中田沼意次が失脚。その政治的才覚によつての上がつた意次だったが、革新的な経済政策や実力本位の人材登用は、守旧派勢力の反感を買つており、家治という後ろ盾を失うやいなや、その地位を維持するのは困難となつた。代わつて実権を握つた老中松平定信の政権下、意次に対する

批判的な言辭が流布されたことが、その後の強欲な汚職政治家のイメージにつながつた。

意次の政策自体は経済の発達という新たな時代に適応せんとした開明的なものであつたが、天変地異の影響による混乱は不運であつたという評価もある。

八王子市場の台頭

旧家の日記は甲州道中の通行活性化を記しているが、大飢饉という世情とは裏腹に、八王子地域にとつては新たな経済的台頭の兆しであつたとも言える。

江戸前期以来、生糸・絹生産とその取引については、上野国(群馬県)南部や武蔵国北部(埼玉県中部)が優位にあり、江戸との間をつなぐ流通経路は中山道・利根川水系方面であつた。そのため、八王子は地方に数ある一市場の域を出なかつた。甲斐(山梨県)方面か

ら甲州道中を通じての絹集荷は宝暦(二七五)一七六四頃には活性化していたとされるが、浅間山噴火によつて武蔵中部から北方への集荷が滞り、南へ甲州道中を経由するようになったことが考えられる。そして、この天明年間以降、青梅など周辺の市場を凌駕してゆくことになる。後の文化六年(二八〇九)の作成となる「江戸田舎日護摩講中元帳」という配札台帳では、西方へ甲斐国中央部まで檀家の在住地が大きく伸張しており、天明年間からしばらくは、高尾山信仰圏の拡張においても転機をなした時期であつたと考えられる。

天明六年(二七八)十一月、紀伊徳川家から音信があり、前当主重倫の出家と、白銀五〇枚を永代祈禱料として奉納するので、今後の祈禱執行は勝手次第、御札の献上はしなくてよいとする実質的な祈禱所廃止が伝えられた。明和九年(二七

七二)の八千枚護摩供十座執行から続いた恒常的な祈禱執行には区切りがつけられることになつた。しかし、紀州家との関係こそ途絶えたものの、地元八王子の経済的台頭とともに、高尾山信仰のさらなる興隆が目前にあつた。

註1 寺社奉行の配下として寺社行政を司る愛宕真福寺と他三ヶ寺のこと。

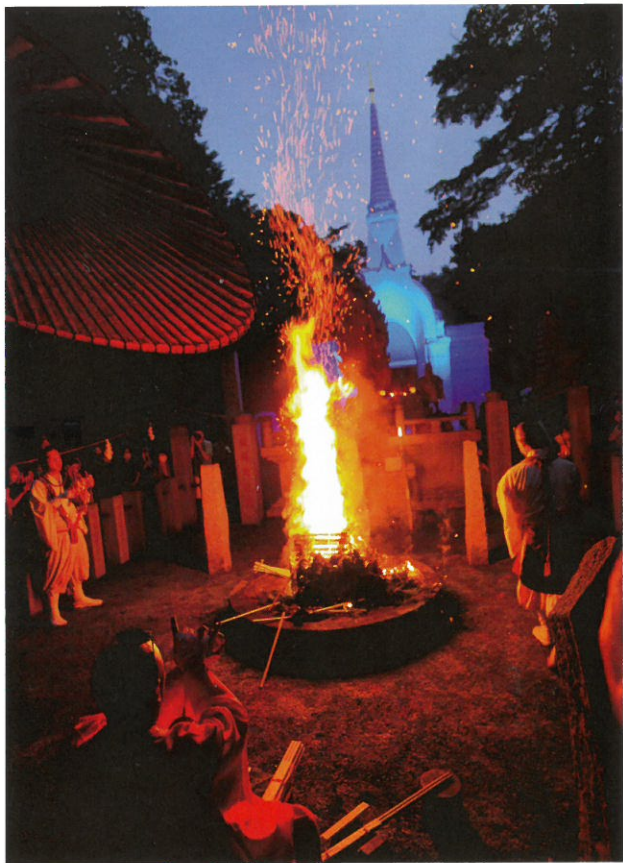
註2 門松などの松飾りを立てている内という意味で、正月の期間を言う。また、「兵糧」という用語は、必ずしも軍用にかかわらず、主食の意味で使われていた。「野老」は山芋の一種。

《参考文献》林玲子『江戸問屋仲間の研究』(御茶の水書房、改裝版一九七八)、竹内誠『大系日本歴史(10)江戸と大坂』(小学館ライブラリー、一九九三) おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。

夏の高尾山 清涼体感めぐり 灯りの巡礼

真夏の高尾山では「灯りの巡礼」と称し、本年は八月十九日に夕暮れ時から参道に林立する春日燈籠に灯りが点されます。また有喜苑では、コロナ禍において尽力された全国の医療従事者に感謝の念を届けるため、仏舍利奉安塔を青く照らし出す「ブルーライトアップ」を行い、御信徒の皆様から御奉納頂きました紙燈籠を献灯致します。

同日には夕闇に包まれる有喜苑において、柴燈大護摩供を厳修し、御信徒の皆様への身の上安全、身体健全など諸願成就を一心に御祈念させていただきます。



青く照らされる仏舍利塔の前で柴燈大護摩供が厳修される

紙燈籠奉納のご案内

高尾山で行われる「灯りの巡礼」にて、本年も八月十九日に紙燈籠を献灯させて頂きます。コロナ禍で尽力された全国の医療従事者の皆様に感謝の念を届けると共に、御信徒の皆様方の願いを紙燈籠に込めて夕闇を照らします。

紙燈籠には奉納者名と願い事を記し、諸願成就を御祈念致します。奉納を御希望の方は、手紙又はFAXにてお申込み下さい。ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

燈籠 二千元
特別紙燈籠 一万円

※特別燈籠をお申込みの方には柴燈大護摩供の際、お名前の読み上げを致します。

お申込み方法

手紙又はFAX
に必要事項（郵便
番号、住所、氏名、
電話番号及び願い
事）を明記の上、
お申し込み下さい。

〒一九三・八六八六
八王子市高尾町
一二七七
高尾山薬王院
信徒課

締切り

八月十四日（月）



暗闇を照らす紙燈籠

おはなし散歩道

となりのあなたも

八王子市 池田美絵

四十歳になった沙織は、夢に向けて一步を踏み出した。清滝駅の広場から徒歩で行く。これまではケイブルカーを使って高尾山に登っていたから、初めてのチャレンジだ。

夢とは、「富士山に登る」ことだった。実現できないまま年月は過ぎていたが、不惑の年に一念発起。その第一歩として、誕生日のこの日、高尾山で足腰の鍛錬を開始し、薬王院で誓いを立てたいと考えたのだ。

梅雨明けを思わせる澄み切った青空が広がっていた。登山道の入り口で靴のひもを結びなおし、水分を補給する。木立の中を歩き出したが、たちまち太ももが張ってくる。汗をぬぐいながら一歩一歩踏みしめるように

して登っていった。

小一時間ほど登っただろうか。ケイブルカーの高尾山駅も近い。沙織はこの近くにお気に入りの場所があった。そこまてがんばって歩き、休憩しようとして自分へ水を飲ませた。「かすみ台展望台」は視界が東側に開け、眼前にパノラマが広がる。晴れていれば横浜方面や東京都心部、スカイツリーも望める場所だ。

息を弾ませて展望台に着くとスカイツリーを探す。遠くに霞むスカイツリーを確認し、沙織は、「ラッキー」と小さく声を発した。

ベンチに腰を下ろして、沙織は水筒の水をぐくぐくと飲んだ。涼しい風が吹いてきて生き返る思いだった。この標高まで自分の足で登ってきたこと

がうれしかった。

一息ついてみると、隣のベンチに女性が一人で座っているのが目に入った。自分と同じぐらいの年齢だろうか。ただ、顔を真っ赤にして、うなだれている。

熱中症を心配した沙織は、その女性に「大丈夫ですか」と声をかけた。「気分が悪くなってしまう」と、女性がかぼそい声で言ったので、沙織は凍らせて持ってきたペトボトルをリュックから取り、差し出した。

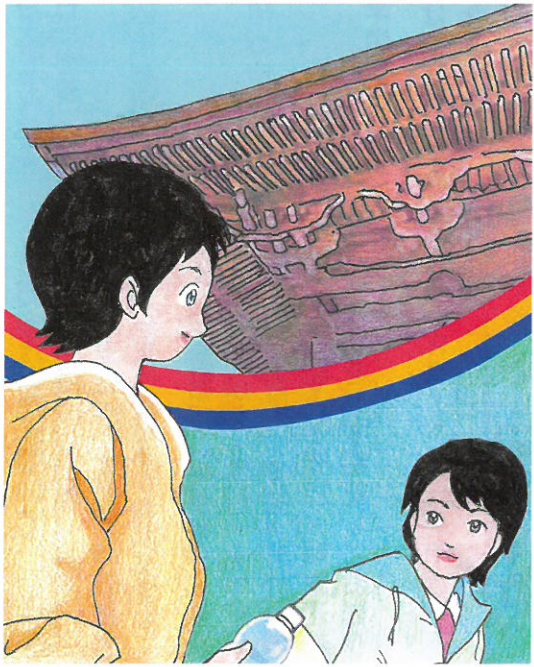
「首筋を冷やすといいですよ」。沙織が言うのと、女性はペトボトルを首筋や額に当て「気持ちがいいです」と頭を下げた。しばらくすると、「もう大丈夫です。ありがとうございます」と、女性がございませんと、女性から返ってきた。でもここから先の道のりを沙織が案じていると、「薬王院にお参りしたい」ということなので、「一緒に行きませんか」と誘った。

彼女の体調は回復したようで、足取りも確かだった。並んで歩きながら、どちらからともなく会話が始まり、沙織は富士登山の夢を話した。「大きな夢ですね。がんばってください」と、彼女は応援してくれた。一方の彼女は、病気で入院していたが退院したので、そのお礼の参拝に来たということだった。「せっかくなので、あなたに助けられてもらって有り難かった」と感謝してくれた。

浄心門をくぐると、山の空気がいちだんと濃密になった気がする。彼女に無理をさせないよう沙織はゆっくりと歩を進めた。途中の分かれ道は、傾斜の緩やかな女坂を選び、本堂へつながる最後の石段は支え合いながら上がった。

そうして本堂に着くと、沙織は手を合わせ、富士山登頂の誓いを立てた。ふと横を見ると、目を閉じて一心に祈る彼女がいた。彼女の病氣平癒と幸せを沙織は祈った。

(挿し絵・小出 茂)



宗祖弘法大師御誕生 高野山巡拝のご案内

令和5年9月27日(水)～9月29日(金)

本年は真言宗の宗祖弘法大師御誕生壹千二百五十年に正當する記念の年です。このご勝縁にあたり、当山貫首佐藤秀仁大先達の元、二泊三日の行程で世界遺産である高野山の巡拝を開催致します。是非この機会にお大師様との御縁を深めて頂きたいと存じます。

行 程	※行程は変更になる場合がございます。
9月27日(水)	新横浜駅[11:00頃発]—(東海道新幹線)—新大阪駅[14:00頃着] —(バス)—市内ホテル『和歌山《夕食・宿泊》』
9月28日(木)	ホテル[9:00発]—(バス)—高野山内散策 —高野山大門《登拝グループ合流》—(バス)—持明院《昼食》—(バス) —奥之院参拝—(バス)—竹林院『奈良県吉野郡《懇親会・宿泊》』
9月29日(金)	竹林院[9:00発]—(バス)—金峯山寺参拝—(バス)—新大阪駅付近《昼食》 —新大阪駅[15:00頃発]—(東海道新幹線)—新横浜駅[17:30頃着]

申込期日 令和五年七月十五日(八月二十五日(必着))

参加費 十三万五千元
※支払い方法は申込後お知らせ致します。

定員 二十名
※定員になり次第締め切りです。ホームページでご確認ください。

集合 新横浜駅 午前十時半頃予定
※佐藤貫首は一日目と三日目は同行致しますが、二日目は登拝のため午後の奥之院参拝から合流して同行致します。

※申込受付後、順次詳細を発送致します。

※九月上旬に高尾山麓不動院にて結団式・説明会を行います。

※一日目のホテルは一部屋一名となりますが、二日目の竹林院は一部屋二名(五名)となります。

※二日目の高野山奥の院参拝、竹林院懇親会は、高尾山慶賛会の皆様と合流致します。

お申込みについて

申込方法は左記のいずれかの方法とし、お電話での申込は承りかねます。

- 1 ハガキに必要事項【郵便番号・住所・氏名とふりがな・性別・生年月日・電話番号(自宅、携帯とお持ちの方は両方で記入下さい)・緊急連絡先と関係】を必ず明記してお送り下さい。
- 2 左記のQRコードからお申込み下さい。



※保険に加入する都合上、必要事項は必ず明記して下さい。
※お申込み後に取り消しをされる場合は、九月五日より取消料金を申し受けます。

ご相談等のある方は時間内(九時～十六時迄)にご連絡下さい。

旅行取扱 京王観光株式会社 八王子支店

〒一九二〇〇八二
八王子市東町二一十二
京王八王子東町ビル四階
電話 〇四一六三二四七二

問い合わせ先・巡拝企画・主催
大山山 高尾山薬王院
宗祖弘法大師御誕生
壹千二百五十年記念高野山巡拝「係担当秀峰会事務局」
〒一九三三八六八六 八王子市高尾町二七七
電話 〇四一六六一二二五

高尾山子供やまぶし修行体験会

高尾山に古来より伝わる、やまぶしの修行体験してみませんか？
山に広がる大自然の中で、やまぶしと共に滝に入り、山歩きをして困難や試練に耐える強い心を鍛えてみましょう。

夏休みの思い出作りとしても、是非ご参加下さい。

日程 令和五年八月六日(日)
集合場所 高尾山麓不動院 午前八時集合
参加費 五千元
対象者 小学生(一年生～六年生)
定員 五十名(定員になり次第受付終了)
行程 出発(不動院)↓滝修行(琵琶滝)↓山歩き(自然研究路)↓食事↓腕輪念珠作り↓御護摩修行参加(大本堂)↓下山(ケーブルカー使用)↓閉会式(不動院)↓解散(十五時四十五分頃)

申込方法 左記QRコードより受付期間内にお申込み下さい。
七月十五日(土)九時から
七月三十一日(月)十五時まで

※受付が完了しましたら子供やまぶし受付確認メール【自動配信】を送信します。
子供やまぶし受付確認メールに要綱(持ち物、服装等記載)・行程表を添付致しますので必ずご確認ください。



高尾山報助成金志納者御芳名(順不同・敬称略)	高尾山報助成金志納者御芳名(順不同・敬称略)
小平市 関 道雄	練馬区 稲毛 英子
日野市 太田 雄三	古河市 中山 春夫
羽村市 島津 彰仁	八王子市 小池まり子
新座市 彰山 彰麗	所沢市 青木 永次
行田市 松本 恵美子	〃 青木 和子
三鷹市 上萩 信子	東筑摩郡 竹内 政男
八王子市 石井 忠明	高尾山健康登山者一同
常陸大宮市 小河原 祥子	訂正とお詫び
富里市 森 照森	高尾山報六月号十五
足立区 中山 恵司	ページ「花探索の魅力」の
茅ヶ崎市 椎野 佳子	下段に掲載致しました、
さいたま市 大島 美恵子	写真と解説文を逆に掲載
八王子市 石田 博司	してお詫びして訂正さ
伊勢崎市 芳澤 秀海	せて頂きます。
〃 佐々木 晋介	
府中市 永田 新一	
北区 市川 満知子	

御奉納御礼



八王子市内にお住まいの増山進・史子様御夫妻より、新しく松扇を御奉納頂きました。
松扇は御護摩修行を修法する導師が、護摩壇の護摩木に点火された浄火を益々大きな炎にして煩惱を焼き尽くすために使用するものです。京都の東寺には、現存する中で最古とされる松扇が残されております。

電話 〇四一六六一二二五



登山だより

八月行事日程

- 一日～七日 聖天秘供(聖天堂)
- 三日、十五日、二十七日 弁天様御縁日
- 八日 仏舍利詣り(仏舍利塔)
- 二十一日 飯縄様御縁日
- 神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十六日 月例写経会

(十三時山麓不動院)

二十七日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養(十時奥之院)

毎日の お護摩奉修時間

午前9時30分
〃 11時00分

午後0時30分
〃 2時00分
〃 3時30分

ご講中・団体等
御相談下さい。

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権現様の日々の御加護に感謝し、沢山の御供物を捧げて御本尊様威光倍増の為、御供養申し上げる法要です。皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は大本堂までお申し出下さい。

尚、法要終了後に百味のお札を授与致します。

毎月二十一日午前九時勤修御志納金 一口三千元以上



※八月の御詠歌勉強会は都合により休止とさせていただきます。

高尾山の昆虫

ヒメツノゴミムシダマシ

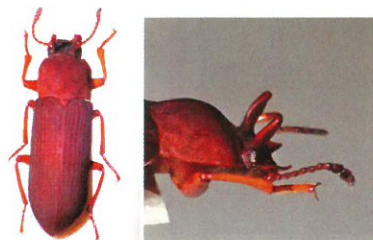
ツノがあるゴミムシダマシは、高尾山では古代の角竜のような長大なツノ状突起を持つツコブスジツノゴミムシダマシを含む数種のカブトゴミムシダマシの仲間が棲息します。

そしてそれらとは別系統のミツノゴミムシダマシ(以下ミツノ)という頭部に小さな三本ツノを備える種がありますが、ある時見つけたミツノにちよつと違和感を覚え、後でヒメツノゴミムシダマシだと分かりました。本種は艶消しの黒く暗赤褐色で、頭部の左右先端は鋭く尖り、複眼の脇から上方に突き出る一對のツノ状突起を有し、先端は前方に向かいます。

この仲間は朽木やキノコ類を嗜好し食することが知られ、灯火にも飛来しますが本種はミツノ程多く見かけません。

いつも思うのですが、ゴミムシとは人間が捨てたゴミを食べるからではなく、それを食べにくる他の昆虫を捕食することから付けられた仲間の総称であり、ましてやゴミムシダマシとなるとゴミムシとは形状は似ていませんし、食性も全然違います。

騙してもいないのに、気の毒としか思えません。人間が勝手にそう呼ぶだけであり、当の本種自体はまったく意に介していないことは言うに及びません。



(撮影・文松島 孝)

高尾山報助成金

御志納のお願い

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送っております。

引き続きご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。



高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>



発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円